

大阪錦繪新聞

第三十八号

去歳の三月十九日、第四大区十二小區、曾根崎橋より出火の時、堂嶋裏通三丁目、永井吉松とある、篋の宅、音曲せし、龜市とある、盲人あり、兩人、近火に驚き、にんげんと思へど、愛とめり、推損さへして、かく、龜市思慮をめぐりて、貴公へ見ても歩行まじ、僕へ走まじ行先見へ、此儘骨を焼死せん、我ハ貴公と負ふ程、貴公ハ脊かゝりにして、人とならして行危しと、割木と持て、負ふこ子に、淺瀬あり、深き智い、三人集て思案し、文珠の智恵より二人りより、入り成てあまきこのまは、



竹木芳瀧述
芳光画

新刊
影版友

